広報 かがみの 9
2014年9月号 第115号 毎月1日発行

シリーズ 第52回

恩原の旧石器人

上齋原の恩原貯水池周辺には、日本の歴史では最古の時代となる、後期旧石器時代の遺跡が十ヶ所知られており（恩原1～10遺跡）、これらは恩原遺跡群とよばれています。

このうち、恩原1・2遺跡は、岡山大学考古学研究室を中心とする恩原遺跡発掘調査団によって発掘調査が実施され、断片的ながらも旧石器時代の恩原の人の動きがわかっています。

発掘調査の結果、恩原遺跡の旧石器時代に人が訪れたのは、約三三、〇〇〇年から一六、〇〇〇年前までの期間に四時期あったようです。

旧石器時代には、まだ土器は使用されていませんので、出土遺物は石器が主ですが、石器が出土した最も古い地層からは、石器を作った際の石くずが大量に出土し、また火を焚いた痕跡のある石で組んだ炉など、生活の跡も見つかっています。

石器の石材は、隠岐島などで産出される黒曜石や、島根県松江市周辺の玉随、香川県坂出市周辺のサヌカイトなど広範囲にわたり、旧石器人が山陽・山陰を移動し、石材の入手や技術の交流などを積極的に行っていたことを証明します。

約一三、〇〇〇年前の旧石器時代の終わり頃の恩原遺跡では、「湧別技法」といわれる東北地方でよくみられる製作技法の石器が多く出土していることが注目されており、ある程度まとまった集団が、東北地方から中国山地への移住を目指した移動が行われたのではないかと考えられています。

恩原に最初に人が訪れた後期旧石器時代は、現在よりも気温は低く、今の北北海道と同じくらいの気温であったようです。特に最も寒冷であった二八、〇〇〇～一一、〇〇〇年前頃は海面が八〇～一四〇m程度低く、これにより、瀬戸内海や隠岐島なども陸続きとなり、石材の獲得も可能となったのでしょう。

恩原は現在でも積雪量が多いところですので、おそらく食料や石材を求めて遊動生活を送っていた旧石器人は春から秋にかけて、山陽－山陰を移動する途中の短期的な拠点として滞在したのではないでしょうか。恩原は谷水も豊富であることから、植生も豊かでそれらを求めて集まる動物や魚など、食料となる動植物には事欠かなかったことでしょう。

住居の跡は見つかっていませんし、付近には洞窟や岩陰などもありませんので、おそらく簡単なテントのような構造のものだったのではないでしょうか。

そして旧石器時代の終わり頃には、こうした食料や石材を求めて一定の範囲を移動する集団とは別に、東北地方から新天地を求めて新たな集団が中国山地へやってきた、というのが恩原遺跡からわかる旧石器時代の様子です。また、続く縄文時代の土器や石器も見つかっていますので、引き続き移動の際の拠点として利用されていたのでしょう。

県内には旧石器時代の遺跡はいくつか存在しますが、恩原遺跡では、前に書いたように炉跡などの生活の痕跡が確認され、集団の移動・移住の様子がわかることから、研究上貴重な遺跡とされており、遺跡の一部が平成二十二年に岡山県指定文化財（史跡）に指定されています。

恩原1・2遺跡付近（湖の対岸）

石器を作った際の石くず

恩原遺跡出土石器
（左から黒曜石製・サヌカイト製・玉随製）

参考資料：『上齋原村史』通史編、『旧石器人の遊動と移民 恩原遺跡群』、『恩原2遺跡』

生涯学習課 日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/